

幹線道路整備に対する 地域対応について

篠田 徳壽 議員

質問 幹線道路開通後の地域振興対策を協議会の設置などにより、引き続き対応する必要があると思うが、どのように考えているのか。

建設部長 幹線道路を利活用する地元住民を代表する組織と一緒に市でも考えていきます。

質問 幹線道路の整備により旧道である県道は市道に移管されるが、道路改良の要望は可能なのか。

建設部長 道路の損傷箇所の補修工事は可能ですが、歩道整備などの改善要望は難しいと思われます。

質問 道路整備により孤立してしまう土地の場合、住宅移転を含めた補償などの

対応はできるのか。

建設部長 既存の建物の状況や残地の形状など個々の状況が異なるため、それぞれに応じて対応します。

スポーツ振興と体育施設の現状について

質問 大崎緑地公園の利用拡大と進入道路の改良の考えは。

建設部長 利用拡大に向けて検討します。進入道路の改良は、家屋等が接近しているため難しい状況です。

質問 立地場所がよく、利

用団体も多い市民体育館の改修の考えは。

生涯学習部長 全市的な体育施設の状況、総合計画等からの検討を行い総合的に判断したい。

コミュニティFMについて

質問 設立準備組織の立ち上げを進めているが、この間の行動と現状は。

総務部長 設立準備組織の発起人を募るため準備会を設置。7月頃から賛同者への呼びかけを開始する予定です。



大崎緑地公園

一般質問

教育福祉常任委員会の行政視察

三重県伊賀市と兵庫県宍粟市へ

(小中学校再編とスクールバス運行について)

5月9日～11日まで、三重県伊賀市と兵庫県宍粟市に小中学校の再編とスクールバス運行について行政視察を行いました。

伊賀市は三重県の西北部にあり滋賀県、京都府、奈良県と接しています。

平成16年11月に1市3町2村が合併し面積は約55

8平方キロメートルです。再編については地域住民との合意、校区については自治会が中心となり地域で検討が続けられました。9年間をかけた148回の協議を重ねた地域もありました。通学校区再編にあたっては協議会は

P.T.A代表、自治会代表、校長、教育委員推薦者と幅

広い協議会の中で自分たちの学校という観点で取り組んでいます。旧自治体を超えての再編は、地域性の問題で難しいと説明がありました。廃校になった施設については地元で有効活用を考え、次に民間活用を検討、最終的に処分する方針を立てています。市の方針として義務教育は無料という考えの基にスクールバス運行を行っています。

宍粟市は兵庫県の中西部に位置し、西播磨地域にあ

ります。平成17年4月に4町が合併し誕生した新市です。面積は約659平方キロメートル、人口は約4万人です。少子化の中で市では学校規模は150人以上を目標と定めています。単純な数合わせはせず、地域の実情に合わせて校区として適正化計画を定めています。

適正化については、地域住民と保護者との合意を最優先に考え、押しつけではなく個別計画を住民と共に策定する方針を進めています。

す。

また、教育方針(構想)として幼保一体化と小中一貫教育の導入に向けた取り組みの推進を掲げています。スクールバスについては合併以前の形態で直営方式と委託方式、路線バス利用で運行しています。保護者負担は基本的にありません。

両視察自治体で共通しているのは、地域住民本位で行う。義務教育は無償の考えが貫かれていました。